

**実践研究課題： 小規模小学校における学力・体力向上を目的とした
生活習慣支援対策プロジェクト**

研究代表者： 本山 貢（和歌山大学教育学部）

共同研究者： 嶋坂美和（和歌山大学教育学部）， 澤 憲一， 保田智子（岬町教育委員会）， 松本勝治， 長根わかば， 岡田良平， 河村愛美（岬町立深日小学校）， 本山光， 南貴大（和歌山大学教育学部大学院）， 森本孝子（和歌山大学教育学部附属小学校）

1. はじめに

平成 28 年度より和歌山大学教育学部と岬町教育委員会との連携事業において、「子どもの体力評価および体力向上支援に関する研究」を行い、今年度で 3 年目を迎える。連携が始まった平成 28 年度の全校児童は 108 人、2 年目の平成 29 年度は 96 人、3 年目の平成 30 年度は 86 人と徐々に少なくなっていた。こうした中で、3 年間に渡って大学と連携し、体育の授業改善、運動遊び、生活習慣の改善を中心に、地域に開かれた学校づくりを推進してきた。今年度は、深日小学校としてパナソニック教育財団、安藤スポーツ・食文化振興財団の研究助成に応募し、いずれも体育・健康教育・食育の分野で研究助成を得ることができた。大学の専門家や学生ボランティア、岬町教育委員会との連携、地域との協力が小規模校での研究実践へとつながっていった好事例と言える。

平成 30 年度については、「子どもの体力づくりサポート事業」の取り組みとして (1) 新体力測定における全国との比較、(2) 深日小における新体力測定の経年変化、(3) 小規模校の特性を活かした体力づくりの地域への発信の取り組みについて報告する。

2. 新体力測定における全国との比較

表 1、2 は『平成 29 年度 全国運動能力・運動習慣等調査報告書』の結果をもとに、平成 30 年度の深日小の 5 年生（男女）の結果を比較したものである。全国平均を大きく上回る結果だけでなく、平成 29 年度に全国のトップだった茨城県や福井県の結果も大きく引き離し良好な状態になっている。表 3、4 は本校が少子高齢化の著しい自治体の単学級の小規模校であることから町村・へき地別の結果とも比較した。その結果、小規模の学校と比較しても顕著な好結果が得られた。

表 1 5 年生男子の体力測定の結果

	A	B	C	D	E	割合の差 (A+B) - (D+E)
平成29年度						
全国	12.5%	25.5%	33.2%	20%	8.8%	9.1
大阪府	8.9%	23.1%	34.6%	22.8%	10.6%	-1.4
茨城県	31.7%	33.4%	24.4%	8.9%	2%	30.9
深日小(H30)	44.4%	33.3%	22.2%	0%	0%	77.7
※平成29年度	全国・運動能力、運動習慣等調査報告書					

表 2 5 年生女子の体力測定の結果

	A	B	C	D	E	割合の差 (A+B) - (D+E)
平成29年度						
全国	16.0%	27.4%	33.6%	18%	5.5%	20.3
大阪府	10.3%	24.5%	36.4%	21.8%	7%	6.0
福井県	31.7%	33.4%	24.4%	8.9%	2%	54.5
深日小(H30)	50.0%	30.0%	20.0%	0%	0%	80.0
※平成29年度	全国・運動能力、運動習慣等調査報告書					

表3 町村・へき地との比較（男子）

平成29年度	A	B	C	D	E	割合の差 (A+B)-(D+E)
町村	13.6%	26.7%	32.8%	19%	8.0%	13.3
へき地	15.5%	28.5%	32.5%	16.6%	7.0%	20.4
深日小(H30)	44.4%	33.3%	22.2%	0%	0%	77.7
※平成29年度 全国・運動能力、運動習慣等調査報告書						

表4 町村・へき地との比較（女子）

平成29年度	A	B	C	D	E	割合の差 (A+B)-(D+E)
町村	18.3%	28.6%	32.6%	16%	4.8%	26.5
へき地	24.0%	31.1%	29.2%	11.8%	3.9%	39.4
深日小(H30)	50.0%	30.0%	20.0%	0%	0%	80.0
※平成29年度 全国・運動能力、運動習慣等調査報告書						

3. 深日小における新体力測定の結果の経年変化

図1、2は深日小の5年（男女）の新体力測定における4年間の経年変化である。平成27年度では、男子はA・B判定はなく、女子もA判定はなかった。しかし、4年間で男女ともD・E判定が無くなるという結果となった。新体力測定のD・E判定がC判定に移行したというよりは、全体的にA・B判定が増加していることが注目できる。この要因として、それまで5年生のみが実施していた新体力測定を平成28年度から徐々に全学年に広げ、平成29年度から全校での実施にしたことによって、全校で盛り上げていく土壌が作られたことが考えられる。また、教師も計測の仕方や実施のノウハウが蓄積されてきていることも重要な要素であると考えられる。

深日小 4年間の総合評価（5年生男子）

■A □B ■C □D ■E

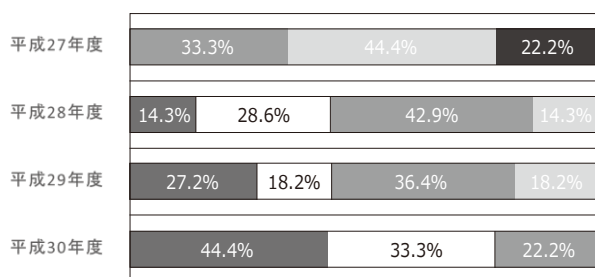


図1 深日小5年男子の経年変化

深日小 4年間の総合評価（5年生女子）

■A □B ■C □D ■E

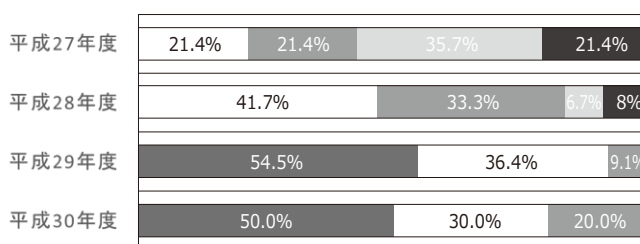


図2 深日小5年女子の経年変化

4. 小規模校の特性を活かした体力づくりの地域への発信

新体力測定で得られた結果をもとに体育の授業改善と並行して、健康教育・食育へも積極的に取り組んだ結果、大阪府教育庁保健体育課からの視察や『平成30年度 全国・運動能力・運動習慣等調査報告書』において、好事例校として全国の小学校約20,000校の中から選抜され、掲載されることとなった。

本校の取り組みを地域へも発信し、地域の人や高齢者にも還元し、体力づくりを通して人とのつながりを広げ、深めるための取り組みをしている。地区にいる元気な高齢者や地域の方に学校のクラブ活動の時間でクラブを設立してもらい、子どもたちと一緒に活動をしている。今年度は、「グランドゴルフ」、「大正琴」、「手芸」のクラブが活動し、必要な用具等も学校に寄贈、貸し出しをしていただいている（写

真1参照)。また、深日地区で催されている高齢者の憩いの場である「いきいきサロン」へも出前授業を教諭が行っている。今年度はすでに3回実施し、いずれの地区でも非常に好評であった。こうした場に来る高齢者の多くは足腰が不自由で学校に関心があっても行けない方々である。こうした人たちに対しても学校教育の垣根を越えて、生涯体育の一環として教員がボランティア活動を実践している（写真2参照）。



写真1 グランドゴルフクラブ



写真2 いきいきサロンでの出前授業

5. 体力向上と健康教育とを連携させた深日小学校の取り組みについて

健康教育には、体育の保健領域、生活科や総合の授業を活用した食育や健康に関する学習などがある。深日小学校においては、養護教諭が担任と連携しながら健康教育に取り組んでいる（写真3参照）。また、毎年、生活習慣調査（写真4参照）を実施し、実態の把握に努めながら、子どもたち自身が生活習慣を見直し、改善する意識付けを行っている。和歌山大学の大学院生による体育の授業補助に入ることや研究に協力をしてもらった。また、本年度は和歌山大学附属小学校の養護教諭を招き、深日小学校の養護教諭、担任の教諭とともに保健の授業（歯の健康）を行った（写真5参照）。



写真3. 食育の授業



写真5. 歯の健康の授業



写真4. 生活習慣アンケート



写真6. 大学院生の体育の授業補助



写真 7. 大学院生の体育の授業補助

4. 今後の取り組み

平成 30 年度は和歌山大学と岬町教育委員会の連携事業で子どもの体力評価および体力向上支援を行った。その結果、連携強化による子どもの体力改善と教員の体力テストの関心や指導法の理解がこれまで以上に高まった。今後、体育授業・健康教育・食育など、連携した取り組みを、計画的・系統的に実施していく必要がある。また栄養教諭や養護教諭を活かした授業展開や「楽しい」体育の授業づくりなど、大学と継続した連携を今後も強化していきたい。